

# 歴史と文化

文化財 記念碑

## 智泉院の天水鉢・地藏菩薩立像 (中央区民文化財)

日本橋茅場町1-5-13



薬師如来を本尊とする智泉院は、江戸の人々から茅場町薬師と呼ばれて篤い信仰を集めた寺院です。境内にある一対の天水鉢は、天保12年(1841)に坂本町(現在の日本橋兜町)から奉納されたもので、江戸の鋳物師・釜屋七右衛門の鋳造です。また、昭和2年(1927)に建立した銅造地藏菩薩立像は、関東大震災で犠牲となった魚河岸関係者の供養を目的に鋳造したもので、彫刻家・戸張弧雁が制作に関わった近代的な仏像です。

## 海運橋親柱 (中央区民文化財)

日本橋兜町3先・日本橋1-20先



明治8年(1875)に改架された西洋風の石造アーチ橋・海運橋の親柱です。かつての掘割(首都高速道路都心環状線の下を流れていた)を渡した海運橋は、橋詰の擬洋風建築・第一国立銀行と併せて取り上げられる名所の一つでした。文明開化期の明治東京を物語る記念の親柱です。

## 其角居住跡 (東京都指定文化財)

日本橋茅場町1-6-10



榎本(後に宝井)其角は、江戸時代に活躍した俳諧師です。若くして松尾芭蕉の門人となり、「越後屋に衣さく音や更衣」鐘一つ売れぬ日はなし江戸の春」といった才気に溢れる名句を数多く詠んでいます。市井の宗匠として南茅場町の薬師堂近くに居住し、多くの門人を集めました。

## 銀行発祥の地

日本橋兜町4-3



明治5年(1872)制定の国立銀行条例に基づいて、明治期には多くの国立銀行(条例に基づく民間銀行)が設立されました。この地には、明治6年(1873)に三井組・小野組の共同出資で創設した日本で最初の近代的な銀行「第一国立銀行」がありました。2代清水喜助が設計・施工した第一国立銀行は、4階建ての和洋折衷(擬洋風)建築で、明治東京の新名所となりました。みずほ銀行兜町支店の壁面には、この銀行建物の変遷が紹介されています。

## 靴業発祥の地

入船3-2-10



旧佐倉藩士であった西村勝三は、明治3年(1870)に入船町五丁目(現在の入船三丁目)へ日本初の洋式製靴工場「伊勢勝造靴場」(現在のリーガルコーポレーションの前身)を開設しました。軍靴の製造や築地外国人居留地の革靴需要に応じたこの工場は、日本の製靴産業の原点です。

## 鐵砲洲稲荷神社 (中央区民文化財)

湊1-6-7



鐵砲洲稲荷神社には、関東大震災後に再建した昭和初期の神社建築が立ち並んでいます。昭和10年(1935)造営の権現造(複合社殿の形式)の社殿をはじめ、昭和12年(1937)に造営した入母屋造の神楽殿や切妻造の摂社・手水舎など、銅板葺の屋根が趣深い景観を生み出しています。